

年度	科目名	課題領域	単位数		
2023年度	外国につながる児童生徒の教育Ⅱ	日本語・教科の力の育成 異文化間能力の涵養	1		
授業の目的	<p>1. 外国につながる児童生徒の実態等に応じ、言語教育に関する専門的知識に基づいて、日本語・教科の教育を行う力を養う。</p> <p>2. 外国につながる児童生徒と、周囲の子どもや社会との相互作用を通して、お互いの異文化間能力を育てる。</p>				
学修目標 (目標とする資質・能力)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童生徒等の受入れ体制・指導体制に応じて、指導・支援を行うことができる。 《育む力：ケ*》 ・第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。 《育む力：コ*》 ・日本語に関する知識を生かして、子どもの日本語の力に合わせた日本語や教科の指導・支援をすることができる。 《育む力：サ*》 ・子どもが新しい環境に適応することを支援できる。 《育む力：ソ*》 ・子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。 《育む力：タ*》 ・子どもの文化間移動の経験や言語的文化的多様性を価値付け、周囲の子どもの学びに結びつけることができる。 《育む力：チ*》 				
各回の授業内容					
回	月日	時間	授業テーマ	内容概略	担当教員／ゲスト講師
1	10月28日	午前1 (90分)	児童生徒が学ぶ日本語の特徴について知ろう	日本語指導の内容や段階性を学び、児童生徒らが学ぶ日本語の特徴を理解する。▷G, H	鹿嶋恵（大学院教育学研究科 特任教授）・藤本典子（教育学部 客員教授）
2	10月28日	午前2 (90分)	日本語指導担当者による実践に学ぶ(1)	日本語指導担当者の実践例から、個に応じた指導や、連携の重要性、子どもの活躍や多様性を尊重する指導方法を学ぶ。▷I, J	西本聡美氏、山川幸子氏、藤本るみ氏（熊本市立黒髪小学校 日本語指導担当）
3	10月28日	午後1 (90分)	日本語指導担当者による実践に学ぶ(2)	インターナショナル・スクール（タイ王国）での日本語指導の実践や、教科につなげる日本語支援について学ぶ。▷I, J	村上淳子氏（鹿屋体育大学 非常勤講師）
4	10月28日	午後2 (90分)	児童生徒が学ぶ日本語の教材を比べてみよう	様々な子ども向け日本語教材を比べて、児童生徒に合わせた指導・支援の在り方や、アレンジの必要性について考える。▷G, H	鹿嶋恵・藤本典子

5	10月29日	午前1 (90分)	児童生徒の発達に合わせた日本語指導・支援を考えよう (1)	JSL カリキュラムの考え方について理解し、小学生の実践事例を読み解く。 ▷I, J, H	鹿嶋恵・藤本典子
6	10月29日	午前2 (90分)	児童生徒の発達に合わせた日本語指導・支援を考えよう (2)	「やさしい日本語」やリライト教材の考え方について理解し、教科学習への参加支援について考える。 ▷I, J, H	鹿嶋恵・藤本典子
7	10月29日	午後1 (90分)	児童生徒の発達に合わせた日本語指導・支援を考えよう (3)	JSL カリキュラムの考え方について理解し、中学生の実践事例を読み解く。 ▷I, J, H	鹿嶋恵・藤本典子
8	10月29日	午後2 (90分)	外国につながる児童生徒と学習環境づくり	・外国につながる児童生徒の文化間移動の経験や言語的文化的多様性を、周囲の子どもの学びに結びつける方法を考える。▷J, K	藤本典子・鹿嶋恵
履修条件			今年度は、教員免許の有無にかかわらず、どなたでも受講できます。		
評価の方法			授業への参加、事後アンケート		

*ア～マの記号は「豆の木モデル」において、外国人児童生徒等教育に携わる教師に「求められる具体的な力」を、また▷A～Nの記号は同じく教員の「養成・研修の内容構成」に該当する。詳しくは、下記文献のpp.5-10を参照。

公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』（<https://mo-mo-pro.com/report>）